

⑫ 実用新案公報(Y2)

平5-29027

⑤ Int. Cl.³

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公告 平成5年(1993)7月26日

A 01 K 87/06

C 9123-2B

(全3頁)

⑮ 考案の名称 釣竿のキヤスティングハンドル

⑯ 実 願 昭62-196942

⑰ 公 開 平1-99154

⑱ 出 願 昭62(1987)12月25日

⑲ 平1(1989)7月3日

⑳ 考 案 者 山 本 茂 東京都東久留米市前沢3丁目14番16号 ダイワ精工株式会社内

㉑ 出 願 人 ダイワ精工株式会社 東京都東久留米市前沢3丁目14番16号

㉒ 代 理 人 弁理士 横田 実久

審 査 官 郡 山 順

㉓ 参 考 文 献 特開 昭61-260823(JP, A)

1

㉔ 実用新案登録請求の範囲

竿杆にリール取付部と固定受座を有するハンドル本体を固着し、前記固定受座後部の竿杆にハンドルグリップを設けると共にリール取付部の前部のハンドル本体の上側を切欠して平面状に形成し、該平面状部に槌状の移動受座の両側部を回り止め当接して移動受座を軸方向自在に形成し、該移動受座の前部外側面に形成した螺子部に竿杆に回動自在に嵌合した回動筒の後部に形成した螺筒を螺合すると共に前記回動筒及び螺筒を、竿杆の一定位置において回動する前部グリップの内部に一体的に固着した釣竿のキヤスティングハンドル。

考案の詳細な説明

産業上の利用分野

本考案は釣竿のキヤスティングハンドルの改良に関するものである。

従来の技術

従来のキヤスティングハンドルは実開昭61-43877号公報及び特開昭60-241833号公報に見られるように前部グリップに対して移動フード緊縮用ナットが別体で露出しているため、前部グリップと緊縮用ナットとの間に段差や凹凸が生じたり螺子部の露出によりこの部分を下側から握持した手に異物感が生じると共に緊縮用ナットの操作もし辛い欠陥がある。

2

考案が解決しようとする問題点

本考案はグリップと緊縮ナットとを一体化して回動することによつて移動フードを緊縮できるようにして握持感の向上と移動フードの緊縮操作も容易にできるようにしたことを要旨とするものである。

問題点を解決するための手段

本考案は前記目的を達成するための構成として、竿杆にリール取付部と固定受座を有するハンドル本体を固着し、前記固定受座後部の竿杆にハンドルグリップを設けると共にリール取付部の前部のハンドル本体の上側を切欠して平面状に形成し、該平面状部に槌状の移動受座の両側部を回り止め当接して移動受座を軸方向自在に形成し、該移動受座の前部外側面に形成した螺子部に竿杆に回動自在に嵌合した回動筒の後部に形成した螺筒を螺合すると共に前記回動筒及び螺筒を、竿杆の一定位置において回動する前部グリップの内部に一体的に固着したことを要旨とするものである。

実施例

本考案の実施例を図面について説明すると、竿杆1に固着されかつ上部にリール取付部2を形成したハンドル本体3の後部上側には固定受座4が、下側には指掛5が夫々一体に設けられると共にハンドル本体3後部の竿杆1にはハンドルグリップ6が一体的に固着されている。

3

また前記ハンドル本体 3 の前部上側は略平面状に切欠形成され、該平面状部には前部の外側面に螺子部 7 を設けた樋状の移動受座 8 の両側部が回り止めかつ軸方向自在に載置されると共に前記螺子部 7 には竿杆 1 に回転自在に嵌合した回転筒 9 の後部に形成せる螺筒 10 が螺合し、前記回転筒 9 と螺筒 10 の外側部には前部グリップ 11 が一体的に固着され、更に前記前部グリップ 11 の前端部は竿杆 1 に固着した係止筒 12 に嵌着固定されかつ前記回転筒 9 の前端を支承した摩擦面筒 13 に回転自在に嵌着されており、前部グリップ 11 を一定位置で回転することにより、これと一体的な螺筒 10 を回転して樋状の移動受座 8 を前後方向に摺動できるように構成されている。

本考案は上記のように構成されているから、リール取付脚 A をリール取付部 2 に載置してその後端を固定受座 4 に挿入した後前部グリップ 11 を回転して樋状の移動受座 8 を後方に移動してリール取付脚 A を固定受座 4 と移動受座 8 間に緊締装着するものである。

考案の効果

本考案はリール本体の前部上側に平面状部を切

4

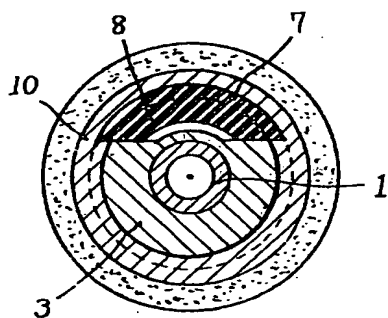
欠形成し、該平面状部に樋状移動受座の両側部を回り止めかつ軸方向自在に当接し、前記樋状の移動受座を前後に摺動する螺筒を、これと一体でかつ竿杆に回転自在に嵌合した回転筒と共に前部グリップ内に一体的に固着したので、握り易い前部グリップを手の掌又は指で回転することにより移動受座を容易に緊締又は弛緩することができると共に前部グリップの下側においては従来のような緊締環が露出したり、螺子部が露出したり、前部グリップと移動受座との間に段差や隙間が生じることがないので、前部グリップ下側部を異物感なく感じ良く握持して魚釣り操作を円滑容易に行うことができる優れた特徴と実用性を有する。

図面の簡単な説明

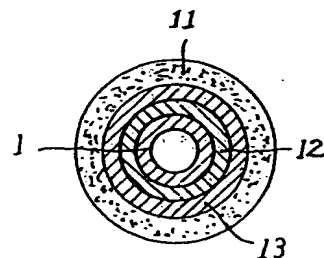
第 1 図は本考案の縦断正面図、第 2 図は第 1 図 I～I 線断面図、第 3 図は第 1 図 II～II 線断面図である。

1……竿杆、2……リール取付部、3……ハンドル本体、4……固定受座、6……ハンドルグリップ、7……螺子部、8……移動受座、9……回転筒、10……螺筒、11……前部グリップ。

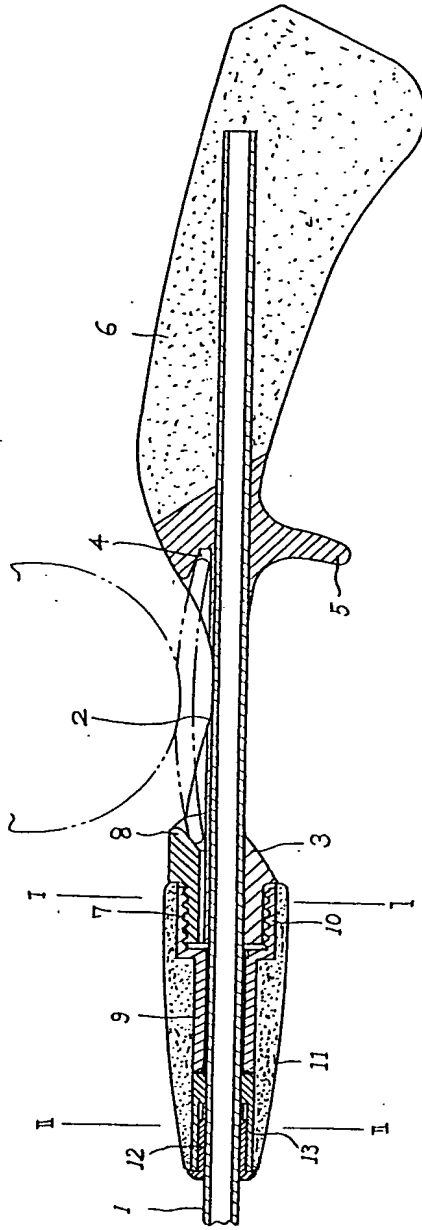
第 2 図



第 3 図



第1図



THIS PAGE BLANK (USPTO)